

消毒液を無料提供

小布施の信州口腔外科
インプラントセンター

困っている人がいれば分けてあげたい



自家製造した次亜塩素酸水を手にする北村所長

北信口一カル(長野県中野市)
2020年4月10日(金曜日)発行

小布施町の信州口腔外科インプラントセンターは、新型コロナウイルスの感染拡大対策としてマスクとともに需要が高まっている消毒液について、必要でありながら足りずに困っている人がいれば提供したいと治療で使っている次亜塩素酸水を無料で分けている。

同医院では手術前のようななどで使う消毒液を製造する機械を10年ほど前に導入し、院内で500ppmの次亜塩素酸水を作っている。

北村豊所長(71・栗力丘)は3日、本社を訪れて、同医院で製造した次亜塩素酸水を消毒液がなくて困っている人がいれば提供したいと説明。無料で適切な量を提供するとし、希望者は同医院まで容器を持って来院してほしいとしている。

北村所長によると次亜塩素酸水の濃度は使用目的別に▽滅菌 \parallel 400 \sim 600ppm \parallel 菌やウイルスを死滅させたい際の濃度。ただ一般家庭で使用す

るには過剰▽除菌 \parallel 200ppm \parallel 家庭での使用に適する。効果も長く、滅菌もできる▽消臭 \parallel 50 \sim 100ppm \parallel 主ににおいを消したい場合▽空間除菌など \parallel 50ppm \parallel 空間の除菌・消臭、手の消毒やうがいを使用する場合に区分される。同医院で提供する次亜塩素酸水は500ppmで、200ppmに薄めて使用することを推奨している。問い合わせは同医院☎026・242・6888へ。